

新盆へ向け 喪服¹日50着

計350着被災地へ

東日本大震災後の初盆を控え、一般社団法人「日本リ・ファッション協会」が31日、東京・新井薬師で開催された震災復興支援イベントで50着の喪服を集め



喪服提供を呼び掛ける鈴木純子代表理事

た。午後1時過ぎ、受付前には喪服を手を持った人々が列をつくった。同協会の鈴木純子代表理事(45)は「1日でこんなにたくさん喪服が集まるとは思っていませんでした」と驚いた。

同協会は、震災直後から被災地に衣類を届ける活動を始め、6月18日の百か日忌の際に被災者から「お盆は礼服で迎えたい」との声を聞いた。7月からホームページなどで「喪服提供」を呼び掛け、30日までに全国から計300着集めた。喪服を提供した都内在住の主婦鈴木君代さん(70)は「現地に行くことは難しいので、このような形で役に立ててうれしい」と笑顔。計350着の喪服は、8月10日ごろまでに被災地の避難所に届けられる。【峯岸佑樹】